

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん



汐入

第143号

平成22年

5月23日



飛鳥社小塚原天王宮 (天保年間) 「江戸名所図会」

三々輪橋界わい
平成22年9月
第5回

ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん(大正14〜平成19)の遺稿集「三ノ輪橋界わい」より

次に祭礼について述べてみよう。

『改修荒川区史』上巻は次の通りである。
(素蓋雄神社は天王様ともいう)昔から名高いのは南千住素蓋雄神社の祭礼である。(中略)昔は小塚原町・町屋・三河島・三之輪・通新町の五カ町村に分かれていたから、その祭礼は神社奉行、所役人以下子総代・世話人・名主・取締の

もとに盛大に举行され、ここに江戸盛期の文化・文政頃には、いとも盛大に行われたと記されている。

荒川区教育委員会の平成二年度の史料によると素蓋雄神社の伝承として天文十年荒川洪水の折、町屋村左右衛門が御殿野(町屋)において神輿を得、本社に納めてより神輿渡御が行われたと伝える。現神輿

(注1)は明治十年千葉行徳、十代浅子周慶の作、昭和六十三年同十三代に大修繕を依頼し完成する。鎮守講は※六十一ヶ町に及び新開神睦講はそれに属している。大正七年に新開地近くの野原で祭伴店を着た三、四十人の人々の写真が残っているがその時はまだ新開という睦はなかった。

昭和廿年の東京大空襲により神社は焼失し史料がなくなり、新開がいつ出来たのかは正確には解らないが大正十一年八月吉日と大幕に新開神睦講と書かれており、又前記の浅子氏の作と伝えられる。

現状の大神輿の下のプレートには松田菊蔵氏(マツダ文具店)・山崎富次郎氏(大勝湯)・栢沼文蔵氏(野笹カラス店の叔父君・田中梅之蒸氏・亀倉常松氏・町内頭馬場諏訪吉氏の名がきざまれておりその頃に新開神睦講が設立されたと思う。

以上三々輪橋界わいについて、とりとめのない拙文になってしまったが以上については、皆川重男氏、高梨榊吉氏、松田達弥

氏や他の方々の御助言御畫力によるもので厚く御礼申し上げます。

(注1) 現神輿 台輪寸法4尺1寸。重量は千貫(3750kg)

(注2) 六十一ヶ町
南千住・三ノ輪地区(14町会)は瑞光・奈哥・志茂・上町・二丁目・若宮・六本・諏訪・通新町・河原崎・新開・箕里・東三之輪・三之輪。

三河島地区(32町会)は一本町、間道睦・一の西文化・二の東・共栄・昭和睦・峡田睦・三の東・三の中央・大西・四の西仲・荒川文化・荒川中央・荒川宮地・平和・新堀・明朗・東共栄・銀成・五の北・六の南・荒川親交・七の北・仲道会・七の同親会・菅苗会・正庭・二の坪・三河島・子の神・グリーンコーポ町屋。

町屋地区(15町会)は一の東、一・二の仲、一の南・東栄・二の仲・実掲(みあがり)・町屋睦・三の仲・江川・六の南・町屋東・八の文化・八の中央・新地・六の西。

☆杉山さんと千住宿を歩こう

◇5月29日(土) 1時

JR南千住駅改札口集合

帰りの電車代160円持参

雨天中止

問合せ 杉山さん090(4203)6566

☆すまいるたんふれあい亭

◇5月30日(日) 12時半〜3時20分

瑞光ひろば館(ジョイフル三ノ輪近江屋呉服店路地入り左) 2F

キーボード・尺八・ハーモニカの演奏で

・歌声サロン 参加無料